

中国の経済統計と国際的統計品質*

— 第7回中日経済統計専門家会議 —

張 南*

1. これまでの交流会議の回顧

1990年から1996年にかけて、中日官庁統計と経済統計の相互理解を目的に、中国の国民経済計算作成などの問題を中心にして、統計学者が架け橋の役をして、政府統計部門実務家の参加という形で、「中日経済統計専門家会議」が北京と東京で交互に合わせて6回開催された。

第一回目の会議は1990年10月22-23日で、中国国家統計局で、京都大学経済研究所佐和隆光教授を団長とし、経済企画庁国民所得部、総務庁統計局、通産省統計調査部、日本銀行調査統計局、大蔵省官房企画課、及び日本経済新聞社経済情報部などの統計専門家から、日本の国民経済計算、家計消費統計、産業連関統計、資金循環勘定、財政統計、及び日本経済マクロモデルなどの統計作成の技術が紹介された。

第六回目の会議は1996年10月27-28日で、経済企画庁の会議室で、中国国民経済計算研究会の龍華会長を団長とし、国家統計局統計設計管理司の林賢郁司長を副団長とする7名の中国統計使節団が訪日し、93SNAへの移行と中国の国民経済計算体系の整備、中国の実質GDPの計算、中国の資金循環勘定の作成、中国統計調査の調整と管理、中国の1995年工

業センサス、中国の1996年事業所調査、及び2000年に向けての中国の統計改革などをテーマにして、中国の統計制度と現状が紹介された。質問と議論を重ねて、成功した統計交流会議であった。1990年代は中国政府統計のMPS体系からSNA体系に移行する時期でもあり、中国の国民経済計算作成の諸問題を中心とした6回の交流会の開催は両国の経済統計の相互理解、特に中国の新しい国民経済計算体系の作成によい参考になったと言えるであろう。

2. 今回交流会議の意義

今回の交流会議は8年ぶりの再開にあたり、京都大学21世紀COEプログラム「先端経済分析のインターフェイス拠点の形成」の主催で、2004年11月25-26日に、「中日経済統計専門家会議」が東京のキャンパス・イノベーションセンターにて開催された。

この8年の間、中国と日本の経済交流の深化にともない、経済関係の相互理解の必要性は格段に高まっている。そのうえ、中国は市場経済化を推し進めて高度経済成長を遂げる一方、貿易摩擦、環境、貧富の格差、金融市場の整備、人民元為替レート調整などの課題に直面しており、中国のGDP統計は中国国内だけでなく、日本を含めて世界全体から注目されるものとなっている。また、2001年から米国ピッツバーグ大学のトーマス・ロースキー教授の論文¹⁾をきっかけとして、中国内外から政府統計への批判の声が絶えず聞こえており、一層の統計改善、情報拡充が期待さ

* 本稿は、以下に紹介する2日間の会議のしめくりとしての筆者による発表を、本誌向けに幾つか手直したものである。会議に参加した経済統計学会会員から『統計学』への掲載の希望・推薦があったのでそれに応えた。

* 広島修道大学経済科学部
〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1

れていた時期であった。この点で、今回中日経済統計専門家会議が再開されたことは、両国の統計交流において意義深い出来事であった。

今回の会議には中国側から、国家統計局国民経済計算司の許憲春司長を団長とし、中国国家統計局、中国財政部、及び中国人民銀行より10名の経済統計専門家が来日した。日本側には、京都大学経済研究所、内閣府経済社会総合研究所、総務省、財務省、文部科学省、日本銀行、経済産業省、国立環境研究所、国土交通省、日本貿易振興機構、日本経済新聞社、及び各研究機関・大学研究者などの参加で、両国の経済統計専門家が一堂に会する機会となった。

また、会議開催にあたって、中国国家統計局林賢郁副局長より、8年ぶりの会議開催を祝う手紙が届けられた。そして、日中経済統計研究会第一回会議参加者であった総務省官房総括審議官の衛藤英達氏がわざわざ会議の懇親会に出席され、ご挨拶をされた。

3. 中国側の報告と日本側のコメント

今回の会議において、中国側から中国の国民経済計算体系、財政統計、科学技術統計、金融統計、資金循環統計、GDP統計、エネルギー統計、環境統計、雇用統計、固定資産投資統計、及び産業連関統計について、統計作成の現状と問題点が紹介された。日本側の専門家側からは対応する日本の状況の簡潔な説明と、中国側の報告に対する質問と貴重なコメントがあり、幅広い分野での率直な意見交換となった。二日間の日程において、報告と討論と質疑を重ねて、経済統計の相互理解を促進し、中国経済統計の改善に役に立つ成功した会議と言えると思う。

まず、中国側の報告資料から、中国の統計進展の面から整理してみよう。この10年の間に、中国の経済統計は従来のMPS体系からSNA体系への体制的な転換・改革を実施し、

1993年から中国のGDPは国民経済における中心的指標として公表し始め、93SNAをベースにして、2002年版の中国国民経済計算の体系を作り上げた。これによって、国民経済計算の基本概念が明らかになり、国民勘定全体の枠組みが作成され、SNA概念による部門分類の設定、マクロ経済集計指標の修正などを行ったうえで、1998年から現在に至ってまだ不十分であるが、国民資産・負債残高のストック統計を除いて、GDP統計、資金循環統計、産業連関表及び国際収支統計を揃えて『中国統計年鑑』に公表できる形になった。1997年に1952-1995年の中国GDP時系列²⁾、2004年に1996-2002年の中国GDP時系列³⁾が公表された。また、この10年間、中国経済の成長とともに、中国の統計作成の制度にも発展がみられ、中国は2002年4月15日に国際通貨基金のGDDS (General Data Dissemination System, データ公表共通システム)に参加し、GDP統計を始めとして、財政、金融、対外経済及び社会人口の統計データを世界に対して公表するようになってきていることも重要であろう。なお、国際的に益々重視されている環境統計についても、その基礎は比較的弱いですが、白紙状態から出発して環境統計を作り始めている。

もちろん、こうした進展があったとしても全体的に見た時、特に日本側参加者による日本の経済統計に関する紹介から分かるように、中国の経済統計は日本などの先進諸国に比べると、まだ低い水準の段階に止まっている。日本側のコメントは中国の統計整備にとって参考になる所が多いが、字数幅の制限もあるので、中国国民経済計算⁴⁾と中国GDP統計に関するコメントだけを抜き出し、紹介しておく。

- ① 日本の新聞で中国のGDP速報が日本のGDP速報よりも大きく扱われる時代が来た。
- ② 世界経済に与えるインパクトから言って、

中国政府が昨年発表した GDP の計算法を公表し、重要関連統計データも公表し、各省の報告資料をチェックするという決定はとても素晴らしいことである。

- ③ 許憲春司長の論文にある GDP 統計の問題、すなわち、a. 速報性と確報性との兼ね合い、b. 需要側統計と生産側統計、所得統計との整合性、c. 新興のサービス分野の統計をどう捉えるかは重要な問題であり、個々の問題は違っても日本でも同様の性質の問題を抱えている。
- ④ 中国は地理的にも広い地域を持つ巨大な経済であるので、基礎統計も地方（省）毎に集計されることが自然である。その時に省ごとの整合性を取るのは大変であろう。
- ⑤ 日本の GDP の推計マニュアルを見てもらうと、既存の統計を出来る限り取り込んでゆくという姿勢がある。日本の 1 次統計は精度も高いものが多いが、各行政部局によって固有の目的のために発足した経緯があり、GDP 統計の観点からは必ずしも整合的でない。
- ⑥ 日本の統計は先人の努力もあり、国際的にも高い評価を受けてきた。しかしながら最近統計の効率化、企業の報告負担の軽減などが主張され、多くのユーザーは統計の基盤が侵食されかねないと危惧している。このようなことを考えると、中国では国家統計局が中心となった、100年のニーズに耐えるしっかりした統計システム（人員＋組織＋調査体系）を作り上げていくことが重要である。
- ⑦ 統計当局は、提供する情報を増やせば増やすほどユーザーから文句を言われる宿命を持っている。その意味では、これから一番注目される中国の国家統計局は、一番批判に晒される可能性が高いが、中国の GDP 統計は中国国内だけでなく世界全体から注目されるものであり、一層の統計拡充、情報開示をお願いしたい。

また、中国 GDP 統計の作成に対する日本側のアドバイスは次のようになっている⁵⁾。

- ① 国際分類基準に従って部門統計の産業分類と支出項目分類を細分化する。
- ② サービス統計調査制度を早いうちに作成する。
- ③ 四半期 GDP を生産計算および支出計算するための調査制度の基礎を築く。
- ④ 価格統計を整備する。特にサービス生産価格とサービス貿易価格指数の作成。
- ⑤ 未観測経済の研究。
- ⑥ 相対的な統計独立管理体制を作り、地方からのデータ干渉を避けるべきである。

許憲春団長は日本側のコメントと質問を受けて、以下のように率直に答えている。

中国の国民経済計算には、サービス業の計算問題、四半期 GDP の計算問題、不変価格の計算問題、分類問題、業務統計と部門統計データ間の非関係問題、地域データと国家データ間のズレ、資源と環境の統計問題、未観測経済勘定問題などの多くの問題は残されている。

会議の場で真剣な討論と質疑を重ねて、相互の統計資料交換の場面が見られて、司会を勤めた私は嬉しい気持ちであった。

4. 中国経済統計に直面している問題

統計の品質を、統計データの精度、統計の実用性、統計の速報性及び統計利用の便利さから把握するとすれば⁶⁾、中国の政府統計の品質は少しずつ改善されている。以下は、細かい問題点を略して、日本側による中国の国民経済計算と中国 GDP 統計に関するコメントを結び付け、日本の国民経済計算年報と、IMF の統計品質基準である SDDS と GDSS を取り上げて、日本と主要国の経済統計の現状を比べながら、中国の経済統計と国際的統計品質との格差を取り上げ、これからの改善すべき点を提起しておきたいと思う。

日本の 93SNA は、国連の 93SNA における

表1 93SNA 移行による主な変更内容の比較

	日本	中国
主な内容	(1) 所得支出勘定の詳細化 (2) 資産（ストック）の調整勘定の詳細化 (3) 消費の2元化 (4) コンピューター・ソフトウェアの計上 (5) 社会資本に係る固定資本減耗の計上 (6) GNP から GNI へ	GDP 統計の公表 I-O 表の充実 FOF の公表 国際収支統計の整備 貸借対照表の試作 2002年版中国 SNA の公表
主要系列表	(1) 国内総支出 名目；年度 暦年 四半期 実質；年度 暦年 四半期 デフレーター；年度 暦年 四半期 (2) 国民所得・国民可処分所得の分配 名目；年度 暦年 四半期 四半期(季調) (3) 経済活動別国内総生産 名目；暦年 実質；暦年 デフレーター；暦年	国内総生産 名目；暦年 デフレーター；暦年 支出法による国内総生産 名目；暦年
統計範囲	フロー編 ストック編 調整勘定	フロー編
公表資料	平成16年版 国民経済計算年報 全530頁	2004年版 中国統計年鑑（三.国民経済計算） 全34頁

出所：http://www.esri.cao.go.jp/index.html, 中国国家统计局『中国統計年鑑2004年』
内閣府経済社会研究所『国民経済計算年報平成16年版』

勧告に沿って、表章形式、項目の名称・概念、主用集計量である GDP などについて、経済の分析可能性を高めるなどの観点から、表1に示されたとおりに、(1)から(6)の主な変更を実施し、統計品質の飛躍的な発展を遂げたと言える。そして、統計範囲からみると、93SNAに基づく国民経済計算の1980年以降の遡及推計値は、フロー編については、平成14年度国民経済計算確報公表時に公表済であるが、ストック編についても推計が完了し、遡及推計値が公表されている。(経済社会総合研究所国民経済計算部、2004.10.29)。これに対して、中国のSNAはこの10年間に多大な努力を払って、2003年から『中国国民経済計算体系(2002)』を実施しはじめ、93SNAの概念に基

づいた中国の国民経済計算の枠組みを一応作り上げた出来たとはいえ、たくさんの面で93SNAとのギャップが残っている。また、公表されているGDPは暦年のデータしかなく、統計範囲もフロー編だけに止まっている。そして、統計の「最終生産物」として公表された統計情報量からみれば、日本の国民経済計算年報の全530頁に比べて、中国の国民経済計算に関する情報量はわずか34頁だけとなり、統計改善・拡充の作業がかなり残されているであろう。

また、現在の中国の経済統計と国際的統計品質とを比較してみたい。IMFは統計公表に二つの統計品質基準を用意している。一つはすでに国際資本市場に入っている国、或いは

国際資本市場に入る予定の国のために設けた経済と金融統計の特別公表基準 (Special Data Dissemination Standard, SDDS) である。もうひとつは、SDDS の基準にまだ満たしていない国のため設けられた一般公表基準 (General Data Dissemination System, GDDS) である。2004年11月までに57カ国が SDDS⁷⁾に加入しており、76カ国は GDDS⁸⁾に加入している。中国は2002年4月に GDDS に入ったのであるが、今回会議の中国財政統計の報告者が触れられたように、中国の統計品質は GDDS の基準に比べてまだ一定の格差がある。SDDS の加入国と GDDS の加入国を調べてみると、経済実力が中国に及んでいない国も SDDS に入っており、そして GDDS の加入国は殆ど発展途上国中の中小国であることも分かる。この統計品質の比較から二つの点を指摘できる。一つは、1990年代において、中国政府統計は MPS 体系から SNA 体系への移行・改革を行ったが、93SNA の発表をきっかけとして、各国統計も自国経済の反映と国際比較可能性の向上を図るため、統計体系の見直し作業を進めていた。各国の統計の進展に比べて、中国の経済統計は国際的高水準との格差を縮小したのではなく、改善のテンポがなお緩やかであり、その経済統計の

品質はまだ低い段階に止まっていることである。もうひとつは、1990年代から続けてきた中国経済の高度成長に対して、経済統計の作成水準はそれほど「成長」しておらず、急速に発展してきた市場経済に対応できない面もあり、厳しい状況に直面されていることを物語っていることである。

5. 今後の課題

以上の統計品質の比較分析から、中国の経済統計は、自国の実状にあわせて統計範囲(フローとストック)、部門分類の細分化、統計公表の頻度、統計データの精度、及び統計利用の便利さなどの面で、更に改善されるべきであり、経済発展のインフラストラクチャ (infrastructure) としての経済統計が現代化しなければ、高水準の経済管理と経済の現代化を進めることができないと考えられる。統計作成の国際的品質水準との格差を確かめて、それを素直に認めて、経済の発展とともに、大幅な範囲で漸進的に統計作成を改善し、経済統計の国際「接軌」(基準の統一)を目指して一層の努力が必要であろう。これが、今回の交流会議を通じて得られた共通認識の一つとなり、中国の統計改善につながることを期待したい。

注

- 1) T.G. Rawski (2001), What is happening to China's GDP statistics?, *China Economic Review*, Vol. 12, No. 4.
- 2) 中国国家统计局国民经济計算司『中国国内総生産歴史資料1952-1995』東北財経大学出版社
- 3) 中国国家统计局国民经济計算司『中国国内総生産歴史資料1996-2002』中国統計出版社
- 4) 内閣府経済社会総合研究所国民经济計算部長 飛田史和「中国における国民经济計算の回顧と展望 (許司長論文) に対するコメント」『第7回日中経済統計専門家会議資料』
- 5) 内閣府経済社会総合研究所国民经济計算部地域特定勘定課 佐藤勢津子「中国における GDP 統計に関するコメント」『第7回日中経済統計専門家会議資料』
- 6) 王晨 (1990) 「統計データの精度と実用性」『統計研究』中国統計学会, 1990年第6号
- 7) <http://dsbb.imf.org/Applications/web/sddscountrylist/>
- 8) <http://dsbb.imf.org/Applications/web/gdds/gddscountrylist/>

付録：日中経済統計専門家会議 プログラム

11月25日（木）

司会 張 南（広島修道大学）

10：00-10：20 開会挨拶 京都大学経済研究所所長 佐和隆光
国家統計局国民経済計算司司長 許 憲春

座長 作間逸雄（専修大学）

10：20-11：10 1. 中国における国民経済計算の回顧と展望 許 憲春
討論 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部長 飛田史和

11：10-12：00 2. 中国の財政統計：概要と展望 中国財政部総合司 副処長 駱 曉強
討論 財務省財務総合政策研究所特別研究官
・信州大学経済学部 教授 田中修

12：00-13：30 昼食

座長 李 志東（長岡科学技術大学）

13：30-14：30 3. 中国における科学技術進歩計測の理論と実践
国家統計局統計科学研究所研究員 何 平
討論1 総務省統計局統計調査部経済統計課長 千野雅人
討論2 文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課長 山田道夫

14：30-15：20 4. 中国の金融統計が直面する課題と今後の発展
中国人民銀行調査統計局処長 才 宏遠
討論 日本銀行調査統計局金融統計担当企画役 岡本敏男

15：20-15：30 コーヒーブレイク

座長 張 南（広島修道大学）

15：30-16：20 5. 資金循環表の作成について 国家統計局国民経済計算司処長 趙春萍
討論 岡本敏男

16：20-17：20 6. 中国のGDP統計 許 憲春
討論 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部地域特定勘定課長
佐藤勢津子

17：30-19：30 レセプション 挨拶 総務省官房総括審議官 衛藤英達

11月26日（金）

座長 佐和隆光（京都大学）

10：00-10：50 7. 中国のエネルギー統計概況 国家統計局工業交通統計司処長 陶 全

討論 経済産業研究所気候変動枠組条約国別審査専門家 戒能一成

10：50-11：40 8. 中国環境統計概説 国家統計局国民経済計算司副処長 邱 瓊
討論 国立環境研究所社会環境システム研究領域 資源管理研究室長
森口祐一

11：40-11：50 コーヒーブレイク

11：50-12：40 9. 中国の雇用統計の現状と問題点 国家統計局人口統計司処長 李 慧民
討論 総務省統計局統計調査労働力人口統計室長 松村迪雄

12：40-13：40 昼食

座長 北野尚宏 (京都大学)

13：40-14：30 10. 中国の固定資本投資統計の現状と改革の方向
国家統計局固定資産投資司副司長 耿 春普
討論 国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課
建設統計企画官 福田充孝

14：30-15：20 11. 中国の産業連関統計 国家統計局国民経済計算司処長 施 發啓
討論 経済産業政策局調査統計部経済解析室参事官補佐 (産業連関グループ
長) 新井園枝

15：20-15：30 コーヒーブレイク

司会 美添泰人 (青山学院大学)

15：30-15：50 会議のまとめ 張 南

15：50-16：00 閉会挨拶 許 憲春
佐和隆光